

議事概要記録

開催日時	平成 27 年 1 月 17 日 13:00 ~ 15:00	開催場所	済生会和歌山病院 7 階階段講堂
会議種別	平成 26 年度 第 6 回理事会	議長	竹中 正人
		書記	田中 規仁
出席者 〈敬称略〉	玉置 達紀、畑 忠良、竹中 正人、大石 博晃、木下 博之、田中 規仁、 蓬台 克之、丸澤 佳子、栗林 伴有、瀧口 良重、久保 光史、神藤 洋次、 石井 啓子、脇村 小津江、田原 靖子、 村田 正吾、勝山 浩樹、13名		
欠席者 〈敬称略〉	なし	オブザーバー	
次 第			
議事概要	<p>報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 会長報告 2. 第 6 回常務理事会報告 3. 事務局報告 4. 学術部報告 5. 経理部報告 6. 第 36 回和歌山県医学検査学会進捗報告 7. 表彰審査委員会報告 8. 平成 28 年度日臨技近畿支部医学検査学会進捗報告 9. 各種委員会報告 <ul style="list-style-type: none"> (ア) 公益事業活動 (イ) 定款・渉外 (ウ) 精度管理 (エ) データ標準化 (オ) 会誌編集 (カ) ホームページ (キ) 会報 (ク) 月例行事予定表 10. 連盟 11. その他 <p>審議事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事務局より 2. 経理部より 		
	決議事項 及び 継続事項	<p>冒頭、会長から挨拶があった。</p> <p style="text-align: center;">報告事項</p> <p>会長報告 日臨技関連について</p> <p>厚労指定検体採取講習会が、大阪では 1 月 24 日を皮切りに、平成 26 年度内は 3 回開催される予定。平成 27 年度についても大阪市を中心に 7 回開催する予定である。28 年度以降は未定とのことであった。</p>	

1月23日東京において、日臨技情勢報告会、前厚労大臣の田村憲久代議士による講演会、賀詞交換会、翌1月24日に全国幹事会が開催予定とのことであった。
支部・近臨技関連について

(公社)滋賀県臨床検査技師会創立60周年、法人化30周年記念式典に出席したと報告があった。

和臨技関連について、

和臨技災害フォーラムを昨年末にJAビルにて開催した。84名の参加があり、賛助会員からも概ね好評であったと報告があった。次年度以降も継続して開催したいので、各理事に対して協力要請があった。

他団体等について、

検体測定室の動向について昨年12月、県業務課に問い合わせたところ殆ど把握出来ていないとのことであった。

引き続き和歌山県薬剤師会に問い合わせたところ、県内では3件の申請があり、県薬剤師会では国の事業と認識して活動しているとのことであった。

2月11日に第19回和歌山県病院協会学術大会、第15回病院大会へ実行委員・会場担当委員として玉置会長、会場担当委員として田中事務局が出席予定とのことであった

平成26年度医療従事功労者賞(推薦者 大石理事)の授賞式は3月になる予定とのことであった。

常務会理事報告

12月13日海南医療センターで常務理事会を開催した。平成27年度事業計画案の審議報告を中心に事務局より報告した。殆どの次年度計画案・予算案については概ね妥当と判断し、承認することとしたが、一部修正したものについて以下報告した。

ピンクリボン活動について、次年度のピンクリボン事業そのものが規模縮小することになり、当会としても実務担当者数を減らすなどの、企画と予算を縮小する事とした。

医療セミナーについて、予算20万以内において事業が執行できるよう、検査展と調整して再考する事とした。

会報の取材による施設訪問時には、活動報告書の提出と行動費の計上を促すこととなった。

その他の次年度事業計画案については、概ね妥当と判断し承認することとなった。

大石経理部長より、医療セミナーの予算を検査と健康展と調整することについて、確認があった。担当者間で調整し、次回理事会において修正報告することとなった。

その他については、議事録を参照くださいと報告した。

事務局報告

10月10日の第15回病院大会(第19回学術大会)は台風のため、中止決定(2月11日に延期)となった。

10月11日にピンクリボン南紀開催が開催された。

10月18-19日に「検査説明・相談ができる臨床検査技師育成講習会」を開催した。
10月21日に平成28年度日臨技近畿支部医学検査学会（第56回）の会期変更願いを日臨技に届出した。11月23日に日臨技より受理・承諾の通達があった。
10月25～27日に地域ニューリーダー育成講習会に田中事務局が参加した。詳細は伝達講習で行うと報告した。
10月26日、須賀 洋和臨技前理事 享年56歳にてご逝去された。
11月8日に第15回医療セミナー in わかやま ならびに平成26年度全国検査と健康展和歌山会場を開催した。
11月22日にHIV/STI・エイズ啓発活動とVCT検査を和歌山祭の一幕で行った。この模様は12月1日にテレビ和歌山にて放映された。
12月8日に医事功労者に対する知事感謝状贈呈式が故須賀前理事に対して行われ、故須賀前理事のご子息が代理出席した。
12月20日に災害フォーラムを開催した。同日18時のテレビ和歌山報道番組にて災害フォーラムの様子が放映され、翌日の読売新聞誌面にも掲載された。

学術部報告

平成27年度の日本医学検査学会（福岡開催佐賀担当）の一般演題座長推薦に、堀端伸行技師（臨床化学 和歌山県立医科大学附属病院）、箕浦直人技師（血液 和歌山県立医科大学附属病院）、大石博晃技師（病理細胞 和歌山県立医科大学附属病院）、田中規仁技師（チーム医療 和歌山労災病院）の4技師を推薦した。これに関し、佐賀県日臨技学会事務局より各技師に対し座長受諾依頼があり、全員承諾したとのことであった。

平成27年度日臨技近畿支部医学検査学会（第55回）シンポジウム等に関する打ち合わせ会が、12月13日に関西医科大学附属滝井病院で行われたとのことであった。また、平成28年度日臨技近畿支部医学検査学会（第56回）について、会期が5月になる事より平成27年度学会（55）準備中の段階から、平成28年度学会（56）シンポジウムの企画会議を行う旨を各府県学術部長に対して申し出を行い、了承を得たとのことであった。今後はメール会議にて行うことが確認されたとのことであった。

和臨技学術部研究班班長班員会議を、2月7日に平成28年度学会（56）を行う予定の新橋ビルで開催されるとのことであった。

学術部一般検査研究班員について、杉山絵美技師（和歌山県立医科大学附属病院、産休により辞任）から梅村健太技師（和歌山県立医科大学附属病院 新規）に変更すると報告があった。

経理部報告

前回の常務理事会に提出された各部事業計画と予算案より、27年度概算収支予算案の提示と詳細な説明があった。収入について、日臨技生涯教育助成金の半減が予想されることの説明があった。

事業を終えた各部署は、速やかな領収書提出の依頼があった。

第36回和歌山県医学検査学会進捗報告

一般演題は17題、企業プレゼンテーション8社、展示7社で、意見交換会予約

105名、宿泊予約は60名とのことであった。

抄録集については既に印刷発注を終え、2月の行事予定表と共に配布する予定とのことであった。

座長委嘱状を本人と施設長宛に発送したとのことであった。

学会・学会関連行事のタイムスケジュールについて詳細な報告があった。

特別講演には、「うつ」の現在 さまざまな背景と病態から対応へ と題して県立こころの医療センター岩谷潤医師による講演を予定していると報告があった。

学会運営マニュアルの一部修正依頼があり、学術部で対応するとのことであった。また、最終的な和学会収支予算書の提示があった。

※企業プレゼン等について、時間厳守の徹底を改めて周知するように会長より指示があった。

表彰委員会報告

日臨技受賞候補者推薦について和臨技から該当者なしとした。

平成26年度医療従事功労者賞贈呈に係る候補者推薦について、大石常務理事を和歌山県医務課に推薦した。

平成27年度医事功労者に対する知事感謝状贈呈に係る候補者推薦について、森下元理事を推薦候補者とすることで確認したと報告があった。

和臨技永年勤続者表彰について、27年度は6名の技師が対象であることが確認されたと報告があった。

平成26年度会長賞について、会誌和臨技第42巻の投稿論文11題より選考中と報告があった。

平成28年度日臨技近畿支部医学検査学会進捗報告

特になし

各種委員会報告

公益事業活動

ピンクリボン活動では、10月11日にピンクリボン紀南2014熊野本宮ライトアップに参画したとのことであった。実務11名で執行し、事業報告と決算書報告があった。

医療セミナーでは、11月8日和歌山県立医科大学附属病院中央検査部と臨床講堂において、実施されたと報告があった。肺年齢測定実施者数は44名、講演の入場者数は70名、アンケート調査の回収数は48名とのことであった。アンケートによる臨床検査技師の知名度は昨年より20ポイント上昇の65%と報告があった。

肺年齢測定が44名と若干予定していた人数より少なかったため、人を集める内容を企画する必要があると反省したとのことであった。

HIV/STI・エイズ啓発活動とVCT検査では、和大祭の一画で開催されたと報告があった。例年のミニ口演形式をやめ、パネル展示形式の啓発活動を行ったとのこ

とであった。

アンケートは100名分を準備していたが、200名以上の参加者があった。

テレビ和歌山から取材もあり畑副会長が対応した。次年度も今年度と同じ方向性で企画し、実務委員数も若干増やし規模を拡大したい旨の提案があった。

後進の人材育成の必要性も有ることから、実務委員内で班を作り、各班で企画・運営し執行する力を育てたい旨の申し出と協力要請があった。

定款・渉外

特になし

精度管理

11月18日に和臨技サーベイの速報を発信した。速報の性格上、表記の統一が出来ていない事や未完成のまま発送した分野があったとのことであった。今後の改善点として、全部門のフォーマット統一等の課題があげられ、學術部と検討すると報告があった。

是正報告書については、臨床化学班から対応案が提出されており、これについても學術部と共に検討、対応していく旨の報告があった。

データ標準化

動向は無いとの事。しかし、日臨技からの指示伝達系統が定まっていなことや、データ標準化・日臨技精度保障認証施設制度・日臨技精度管理事業が一本化されていく方向性の中で、データ標準化委員の存在自体が明確でない旨の指摘と懸念を委員長が発言した。この件については会長より、日臨技幹事会等で確認するとの意見があった。

理事からは、日臨技精度保障認証施設増加の啓発活動を行うという発言も有り、勉強会等を開催し、施設長の参加を促す必要性があるのではないかと、発言も有った。

会誌編集

投稿者から利益相反について問い合わせがあったと報告があった。本件については、当会として早急に対応する必要があることが確認された。

会誌和臨技の送付先について、会員と広告協賛企業以外の送付先について確認があり、別途送付リストを担当者に連絡することとした。

ホームページ

特になし

会報

石井理事による各地区の施設訪問について、好評を得ている旨の報告があった。また、石井理事に行動が偏ることから、各地区理事が担当地区内の施設を訪問して頂きたい旨の要請があった。なお、訪問施設では求職情報や勉強会等の情報が乏しいことが報告された。

会報編集を通じて、地区ごとのネットワークが築ければと担当者から提言が有

った。

また、現在は第 64 号を編集集中のことで、平成 26 年度末までの事業報告等を掲載したいため、2 月末を締め切りとした各事業担当者に執筆依頼があった。

月例行事予定表

次年度の行事予定表での広告協賛企業について、ポスター形式のような各社広告媒体を施設内に掲示するような特典を考えていると提案があった。

協賛企業リストに担当者名を入れてはどうかという意見や、ホームページ等にリンクを添付すればどうかと言った意見もあり、今後の検討課題にすることとなった。

連盟

各地の支部学会で加入促進の取り組みがなされたことにより、連盟会員が 1000 人増え、平成 26 年（1-12 月）は 2600 人（和歌山は 61 名（会員比率 18%とトップ））と報告があった。平成 27 年も引き続き、目標 10,000 人をめざし活動するとのことであった。

和学会の一角において、加入受付ブースを設けたいと申し出があり、近畿支部ブロック長の運天氏も参加するとのことであった。

公明党新春年賀会に赴き、昨参議院選挙でお世話になった立谷県議と会談したと報告があった。各団体からは、処遇を改善や規制緩和等をめざし議員連盟を通じて陳情することは難しいことではないというアドバイスを頂いたと、報告があった。

その他

ピンクリボン紀南の石水代表より、次年度のピンクリボン活動は規模縮小するが、引き続き和臨技に対して協力要請があった事が報告された。

乳房模型について、随時貸し出しは可能とのことですので、遠慮なくご活用下さいと、申し出があったとのことであった。

審議事項

事務局より

例年、賛助会員申し込みと各種広告申し込みを一枚の申込み用紙にて募集を行っているが、企業側から広告媒体の違いが分からないと言った意見や、様々な混乱を招くことより、それぞれ 4 部構成の独立申込書形式（賛助申し込み、和歌山学会抄録集広告申し込み、機関紙会誌和臨技広告申し込み、行事予定表広告申し込みの 4 部）にすること、ならびに各種広告募集に対して発行部数・発行予算・募集予定数や募集予算額の根拠を明記することを提案し、了承を得た。

※第 37 回和歌山学会抄録集広告申し込みについては、平成 28 年度近畿支部医学検査学会（第 56 回）が例年の和学会会期の 3 か月後開催にあたることより、速やかに開催可否について和歌山市・紀北地区理事にて審議を行い、対応することとした。

平成 27 年度定時総会を 5 月 30 日開催で具申し、日臨技総会と重ならない事で

	<p>調整することで了承を得た。また、平成 26 年度中に総会運営規程（骨子案）を作成し、27 年度の定時総会においては骨子案に則った総会運営を行い、27 年度中に総会運営規程（案）を作成する。その後、本規程（案）を理事会において承認を得た後に、本規程と定款・細則の矛盾点を是正し、平成 28 年度定時総会において定款・細則の改定を総会にて承認を得た後に確定、登記する方向で確認された。</p> <p>よって、平成 27 年度定時総会は、新たな総会運営規程（骨子案）に則った形の事業報告、議決、審議の形で行い、検証することが確認された。また、次回理事会までに新しい形式の総会議案書（案）を作成することとなった。</p> <p>経理部より</p> <p>事業報告書の書式について、古い形式が継承されているため記入漏れ等が生ずることが指摘された。書式を見直すこととした。</p>				
記録作成	平成 27 年 1 月 31 日	氏 名	田中 規仁	提 出	平成 27 年 2 月 2 日

※ 諮問委員会で「報告書」が提出される場合、「委員会議事録」が別途作成添付される場合は添付資料で可